

令和5年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について

令和5年度（令和4年7月1日～令和5年6月30日）実績報告より

先	-	2	-	1
5	.	1	2	.
		7		

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（令和5年6月30日現在）	28種類	53種類	81種類
② 実施医療機関数（令和5年6月30日現在）	389施設※1	166施設※1	477施設※2
③ 全患者数	142,653人	1,629人	144,282人
④ 総金額（⑤+⑥）	約752億円	約13.1億円	約765.1億円
⑤ 保険外併用療養費の総額（保険診療分）	約655.4億円	約8.4億円	約663.9億円
⑥ 先進医療費用の総額	約96.6億円	約4.6億円	約101.2億円
⑦ 全医療費のうち先進医療分の割合（⑥ / ④）	12.8%	35.5%	13.2%

※1 1施設で複数の先進医療技術を実施している場合でも、1施設として計上している。

※2 1施設で第2項先進医療と第3項先進医療の両方を実施している場合でも、1施設として計上している。

※3 ④～⑥の費用については小数点2桁以下を四捨五入している。

令和5年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について

令和5年度（令和4年7月1日～令和5年6月30日）実績報告等より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（令和4年6月30日現在）	26種類	57種類	83種類
② 新規承認技術数	4種類	9種類	13種類
③ 保険収載技術数	0種類	0種類	0種類
④ 実施取り下げ技術数	-	13種類	13種類
⑤ 削除技術数	2種類	-	2種類
⑥ 先進医療技術数（令和5年6月30日現在）	28種類	53種類	81種類
⑦ 総括報告書受理数	-	12種類	12種類

< 過去5年間の実績 >

	実績報告 対象期間	技術数	実施医療 機関数	全患者数	総金額	保険外併用療養 費の総額 (保険診療分)	先進医療及び 旧高度先進医 療の総額	全医療費のうち先進 医療及び旧高度先 進医療分の割合
令和元年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績	H30.7.1～R1.6.30 (12ヵ月)	88	1,184施設	39,178人	約352億円	約54億円	約298億円	84.6%
令和2年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績※1	R1.7.1～R2.6.30 (12ヵ月)	83	252施設	5,459人	約99億円	約37億円	約62億円	62.6%
令和3年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績	R2.7.1～R3.6.30 (12ヵ月)	83	267施設	5,843人	約103億円	約41億円	約62億円	60.2%
令和4年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績※2	R3.7.1～R4.6.30 (12ヵ月)	83	428施設	26,556人	約151億円	約85億円	約67億円	44.1%
令和5年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績	R4.7.1～R5.6.30 (12ヵ月)	81	477施設	144,282人	約765億円	約664億円	約101億円	13.2%

※1 令和2年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

※2 令和4年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

【先進医療B】

令和5年6月30日時点における先進医療に係る費用

令和5年度実績報告(令和4年7月1日～令和5年6月30日)

整理番号	告示番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
1	2	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	平25. 8. 1	-	-	-	0	-
2	3	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	平25. 8. 1	5,838,138	4,558,678	-	4	3
3	4	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	平26. 1. 1	-	-	-	0	-
4	5	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ビタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法 全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。)	平26. 8. 1	6,636,093	79,115	29.8	5	4
5	10	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	平28. 1. 1	4,541,420	2,468,840	-	5	4
6	11	ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	平28. 1. 1	1,106,078	320,432	2.5	6	4
7	14	重粒子線治療 非小細胞肺癌(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	平28. 7. 1	16,532,072	16,060,000	1.0	5	4
8	16	ゲムシタピン静脈内投与、ナブパクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	平28. 10. 1	19,759,356	729,080	8.2	13	5
9	17	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均等灌流療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	平28. 11. 1	-	-	-	0	-
10	19	術後のカベシタピン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸腺がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平29. 4. 1	11,837,597	8,356,567	4.1	15	11
11	20	S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	平29. 4. 1	15,017,449	3,758,130	5.5	17	11
12	22(1)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) 【陽子線治療を実施する施設】	平29. 6. 1	20,425,330	16,000,000	7.1	12	6
13	22(2)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) 【外科的治療を実施する施設】	平29. 6. 1	-	-	-	0	-
14	23	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	平29. 8. 1	3,423,280	53,000	46.0	1	1
15	24	自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 パージャー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	平29. 10. 1	-	-	-	0	-
16	26	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平30. 2. 1	136,411,482	973,466	0.6	590	36
17	27	TRPV2阻害薬経口投与療法 心不全(十三歳以上の患者に係るものであって、筋ジストロフィーによるものに限る。)	平30. 2. 1	15,434,441	32,401	128.2	5	5
18	29	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	平31. 2. 1	753,070	753,070	-	5	1
19	30	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	平31. 3. 1	14,674,214	13,753,384	-	15	3

整理番号	告示番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
20	31	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	平31. 4. 1	17,277,938	12,135,558	29.0	3	1
21	32	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	令1. 7. 1	159,140	-	1.0	1	1
22	33	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	令1. 8. 1	1,329,170	963,810	6.0	1	1
23	34	プローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	令1. 11. 1	11,663,213	7,000,621	-	87	4
24	35	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	令2. 1. 1	1,694,620	473,730	3.0	4	2
25	36	イマチニブ経口投与及びペムブロリズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令2. 2. 1	9,609,880	8,815,640	1.0	3	2
26	37	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限る。)	令2. 2. 1	-	-	-	0	-
27	38	糞便微生物叢移植 再発性Clostridioides difficile関連下痢症・腸炎	令2. 3. 1	300,370	93,400	1.5	2	1
28	39	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	令2. 3. 1	284,151,906	242,054,226	13.7	26	12
29	40	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(非小細胞肺癌、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	令2. 4. 1	-	-	-	0	-
30	41	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	令2. 6. 1	11,497,176	179,610	14.0	7	1
31	44	遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	令2. 11. 1	172,377,410	49,635,588	21.2	95	10
32	46	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	令3. 1. 1	-	-	-	0	-
33	47	メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法 膠芽腫(初発のものであって、テモゾロミド経口投与及び放射線治療の併用療法後のものに限る。)	令3. 2. 1	11,979,258	210,628	10.1	14	4
34	48	シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	令3. 3. 1	51,844,870	-	71.6	5	2
35	49	人工内耳植込術 一側性感音難聴(高度又は重度のものに限る。)	令3. 4. 1	325,082	107,222	7.0	1	1
36	50	腫瘍治療電場療法 膠芽腫(当該疾病が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、テント上に位置するものに限る。)	令3. 4. 1	468,605	76,215	-	2	1
37	52	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	令3. 7. 1	818,650	203,330	10.0	1	1
38	53	シスプラチン静脈内投与及び強度変調陽子線治療の併用療法 頭頸部扁平上皮がん(喉頭がん、中咽頭がん又は下咽頭がんであって、ステージがⅡ期(p16陽性中咽頭がんに限る。)、Ⅲ期又はⅣ期のものに限る。)	令3. 9. 1	37,564,774	19,758,000	41.1	11	3
39	54	テネクテプラーゼ静脈内投与療法 脳梗塞(発症から四・五時間以内のものに限る。)	令3. 9. 1	257,438,696	12,181,556	19.5	85	12
40	56	アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	令3. 12. 1	16,691,178	336,962	0.3	129	13

整理番号	告示番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
41	57	自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による完全自家血管新生療法 閉塞性動脈硬化症(血行再建術が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	令4. 4. 1	2,200,395	2,008,463	4.0	1	1
42	58	ラメルテオン経口投与療法 悪性腫瘍(六十五歳以上の患者に係るものに限る。)	令4. 4. 1	79,945,940	412,932	15.9	379	3
43	59	ペバシズマブ局所注入療法 重症未熟児網膜症	令4. 4. 1	-	-	-	0	-
44	60	反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	令4. 5. 1	3,723,629	1,602,169	4.3	10	3
45	61	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令4. 5. 1	-	-	-	0	-
46	62	自家臍島移植術 慢性膵炎(疼痛を伴うものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令4. 7. 1	11,425,510	2,660,000	30.5	2	1
47	63	タクロリムス投与療法 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床又は妊娠に至っていない患者に係るものに限る。)	令4. 8. 1	3,774,246	2,412,336	-	20	4
48	64	ネシツムマブ静脈内投与療法 切除が不可能なEGFR遺伝子増幅陽性固形がん(食道がん、胃がん、小腸がん、尿路上皮がん又は乳がんに限る。)	令4. 9. 1	12,510,396	10,663,896	4.9	8	5
49	65	生体肝移植術 切除が不可能な肝門部胆管がん	令4. 9. 1	-	-	-	0	-
50	66	術前のゲムシタピン静脈内投与及びナブーパクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除が可能な膵臓がん(七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。)	令4. 10. 1	9,972,452	6,714,322	1.1	16	7
51	67	自家濃縮骨髄液局所注入療法 特発性大腿骨頭壊死症(非圧潰病期に限る。)	令4. 12. 1	9,945,397	2,737,317	13.3	4	2
52	68	アモキシシリン、ホスホマイシン及びメロニダゾール経口投与並びに同種糞便微生物叢移植の併用療法 潰瘍性大腸炎(軽症から中等症までの左側大腸炎型又は全大腸炎型に限る。)	令5. 1. 1	10,558,617	9,992,767	-	9	3
53	69	集束超音波治療器を用いた前立腺がん局所焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	令5. 2. 1	-	-	-	0	-
54	70	着床前胚異数性検査 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床若しくは妊娠に至っていない患者若しくは流産若しくは死産の既往歴を有する患者に係るもの又は患者若しくはその配偶者(届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。))が染色体構造異常を持つことが確認されているものに限る。)	令5. 4. 1	1,814,380	1,797,200	-	5	1
合 計				1,305,452,918	463,123,661	/	1,629	200

【先進医療B】

令和5年6月30日時点における先進医療の

終了予定日、計画時患者数、登録症例数、協力医療機関数及び年間実施件数

整理番号	告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日(※1)	計画時患者数(※1)	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数(令和4年7月～令和5年6月までの実績)(再掲)
1	2	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	平25. 8. 1	令6. 7. 31	372	372	8	-
2	3	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	国立がん研究センター東病院	平25. 8. 1	令8. 3. 18	38	38	17	4
3	4	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	平26. 1. 1	令8. 5. 25	225	187	12	-
4	5	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法 全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。)	九州大学病院	平26. 8. 1	令6. 3. 31	150	50	11	5
5	10	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	杏林大学医学部付属病院	平28. 1. 1	令7. 11. 10	146	146	30	5
6	11	ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	富山大学附属病院	平28. 1. 1	令8. 12. 31	40	31	9	6
7	14	重粒子線治療 非小細胞肺がん(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	九州国際重粒子線がん治療センター	平28. 7. 1	令9. 6. 30	150	57	5	5
8	16	ゲムシタピン静脈内投与、ナブ-パクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	東京大学医学部附属病院	平28. 10. 1	令8. 5. 31			5	13
9	17	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均衡灌流療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	日本医科大学付属病院	平28. 11. 1	令2. 4. 18	最大27症例	0	0	-
10	19	術後のカペシタピン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸腺がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	平29. 4. 1	令15. 5. 8	115	101	21	15
11	20	S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	関西医科大学附属病院	平29. 4. 1	令9. 5. 31	180	106	29	17
12	22(1)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)[陽子線治療を実施する施設]	国立がん研究センター東病院	平29. 6. 1	令11. 12. 19	83	48	6	12
13	22(2)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)[外科的治療を実施する施設]	国立がん研究センター東病院	平29. 6. 1	令11. 12. 19	207	143	17	-
14	23	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	九州大学病院	平29. 8. 1	令5. 7. 31	12	12	0	1
15	24	自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 パージャー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	平29. 10. 1	令4. 9. 30	25	22	4	-
16	26	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	平30. 2. 1	令11. 11. 30	880	882	35	590
17	27	TRPV2阻害薬経口投与療法 心不全(十三歳以上の患者に係るものであって、筋ジストロフィーによるものに限る。)	国立病院機構 大阪刀根山医療センター	平30. 2. 1	令5. 3. 31	20	28	5	5
18	29	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院	平31. 2. 1	令11. 6. 30	42	0	7	5
19	30	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	国立精神・神経医療研究センター病院	平31. 3. 1	令11. 3. 31	96	30	2	15
20	31	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	東海大学医学部付属病院	平31. 4. 1	令10. 12. 31	20	15	0	3
21	32	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	医療法人沖繩徳洲会 湘南鎌倉総合病院	令1. 7. 1	令9. 6. 30	16~20	2	0	1
22	33	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	東京医科大学病院	令1. 8. 1	令9. 7. 23	45	11	0	1
23	34	プローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	国立がん研究センター中央病院	令1. 11. 1	令6. 9. 17	250	98	3	87
24	35	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	東京都立小児総合医療センター	令2. 1. 1	令7. 3. 31	9~12	9	1	4

整理番号	告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日(※1)	計画時患者数(※1)	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数(令和4年7月～令和5年6月までの実績)(再掲)
25	36	イマチニブ経口投与及びベムプロリズム静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	令2.2.1	令7.10.31	22	6	3	3
26	37	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2.2.1	令7.3.31	15	8	0	-
27	38	糞便微生物叢移植 再発性Clostridioides difficile関連下痢症・腸炎	滋賀医科大学医学部附属病院	令2.3.1	令6.6.30	23	2	3	2
28	39	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	国立がん研究センター東病院	令2.3.1	令12.8.31	84	38	19	26
29	40	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(非小細胞肺癌がん、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令2.4.1	令6.9.30	200	201	2	-
30	41	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2.6.1	令8.3.31	20	20	0	7
31	44	遺伝子組換え活性型血液凝固第七因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2.11.1	令8.3.31	300	95	13	95
32	46	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	令3.1.1	令6.3.31	14	3	0	-
33	47	メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法 膠芽腫(初発のものであって、テモゾロミド経口投与及び放射線治療の併用療法後のものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令3.2.1	令7.10.31	22	13	4	14
34	48	シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令3.3.1	令7.2.28	24	8	4	5
35	49	人工内耳植込術 一側性感音難聴(高度又は重度のものに限る。)	国際医療福祉大学三田病院	令3.4.1	令6.10.31	38	38	0	1
36	50	腫瘍治療電場療法 膠芽腫(当該疾病が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、テント上に位置するものに限る。)	東京都立小児総合医療センター	令3.4.1	令8.3.31	10	2	3	2
37	52	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	横浜市立大学附属病院	令3.7.1	令9.7.18	12	1	4	1
38	53	シスプラチン静脈内投与及び強度変調陽子線治療の併用療法 頭頸部扁平上皮がん(喉頭がん、中咽頭がん又は下咽頭がんであって、ステージがⅡ期(p16陽性中咽頭がんに限る。)、Ⅲ期又はⅣ期のものに限る。)	国立がん研究センター東病院	令3.9.1	令10.4.30	75	22	4	11
39	54	テネクテプラゼ静脈内投与療法 脳梗塞(発症から四・五時間以内のものに限る。)	国立循環器病研究センター	令3.9.1	令6.3.31	226	100	13	85
40	56	アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	京都府立医科大学附属病院	令3.12.1	令8.9.30	200	127	18	129
41	57	自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による完全自家血管新生療法 閉塞性動脈硬化症(血行再建術が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	東京医科大学病院	令4.4.1	令9.3.31	50	2	0	1
42	58	ラメルテオン経口投与療法 悪性腫瘍(六十五歳以上の患者に係るものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令4.4.1	令8.5.31	766	458	2	379
43	59	ベナシズマブ局所注入療法 重症未熟児網膜症	神戸大学医学部附属病院	令4.4.1	令9.3.31	68	0	0	-
44	60	反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立精神・神経医療研究センター病院	令4.5.1	令8.4.30	300	7	7	10
45	61	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	神戸大学医学部附属病院	令4.5.1	令8.3.31	25	0	0	-
46	62	自家臍帯移植術 慢性膵炎(疼痛を伴うものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立国際医療研究センター病院	令4.7.1	令9.3.31	10	2	0	2
47	63	タクロリムス投与療法 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床又は妊娠に至っていない患者に係るものに限る。)	国立成育医療研究センター	令4.8.1	令6.10.31	26	4	3	20
48	64	ネシツムマブ静脈内投与療法 切除が不可能なEGFR遺伝子増幅陽性固形がん(食道がん、胃がん、小腸がん、尿路上皮がん又は乳がんに限る。)	名古屋大学医学部附属病院	令4.9.1	令7.2.28	22	10	11	8
49	65	生体肝移植術 切除が不可能な肝門部胆管がん	熊本大学病院	令4.9.1	令13.8.31	20	0	7	-
50	66	術前のゲムシタピン静脈内投与及びナブパクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除が可能な膵臓がん(七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。)	東北大学病院	令4.10.1	令12.1.4	400	35	9	16
51	67	自家濃縮骨髄液局所注入療法 特発性大腿骨頭壊死症(非圧潰病期に限る。)	順天堂大学医学部附属順天堂医院	令4.12.1	令9.3.31	34	4	1	4

整理番号	告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日(※1)	計画時患者数(※1)	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数(令和4年7月～令和5年6月までの実績)(再掲)
52	68	アモキシシリン、ホスホマイシン及びメロニダゾール経口投与並びに同種糞便微生物叢移植の併用療法 潰瘍性大腸炎(軽症から中等症までの左側大腸炎型又は全大腸炎型に限る。)	順天堂大学医学部附属順天堂医院	令5.1.1	令6.3.31	37	10	2	9
53	69	集束超音波治療器を用いた前立腺がん局所焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	東海大学医学部付属病院	令5.2.1	令13.11.30	310	0	0	-
54	70	着床前胚異数性検査 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床若しくは妊娠に至っていない患者若しくは流産若しくは死産の既往歴を有する患者に係るもの又は患者若しくはその配偶者(届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。)が染色体構造異常を持つことが確認されているものに限る。)	大阪大学医学部附属病院	令5.4.1	令10.3.31	PGT-A実施集団383人、 胚移植実施集団153人	5	0	5

※1 終了予定日・計画時患者数は、医療機関より提出された実績報告(令和5年6月30日時点)から抽出したものであり、実施計画の変更状況等の反映を踏まえ、今後変更する可能性がある。

先-2-2
5.12.7

【先進医療A】
1年間(令和4年7月1日～令和5年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等

告示 番号	技術名	実施医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和3年7月～令和4年6月まで の実績 (実施可能であるすべての医療 機関の実績)
7	末梢血単核球移植による血管再生治療	三重大学医学部附属病院	患者の病変の状態が比較的安定していたため	今後も患者の病変の様子を注意深く観察していく。	0件
12	CYP2D6遺伝子多型検査	東京慈恵会医科大学附属病院	2022年7月1日以降、Luminex社の検査試薬xTAGが販売中止となり、2023年2月で検査を終了した。検査体制継続のために、関係各所で協議を重ね、2023年7月より、株式会社エスアールエルでのCYP2D6遺伝子多型検査への切り替える体制を整えた。この調整のために新規の検査の受け入れを積極的にはできなかった。	新しい検査体制が整ったので、すでに3名の患者からの申し出がある。検査希望の共同研究施設申請の依頼も来ている。また、今後は、学会・研究会の他、患者会を通じて、検査の案内を行っていく。	3件
13	糖鎖ナノテクノロジーを用いた高感度ウイルス検査	鹿児島大学病院	インフルエンザの流行はあったが、インフルエンザによる入院患者がなく検査の実施事例がなかったため	今シーズン以降、流行に応じて実施する予定	0件

【先進医療B】
1年間(令和4年7月1日～令和5年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和3年7月～令和4年6月までの実績 (実施可能であるすべての医療機関の実績)※
2	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	平成29年11月に予定症例数到達により、症例登録を終了したため	保険適用に伴い、R5. 12. 1告示削除済	0件
4	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	本試験は2020年5月に症例登録期間が終了しているため。	—	0件
17	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均衡灌流療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	日本医科大学付属病院	2019/1/23に中止となっているため	—	0件
24	自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 バージャー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	研究の症例登録期間終期が2021年9月30日であり、2022/7/1～2023/6/30の期間中の本治療の提供は不可であったため。	取り下げの申出により、R5. 9. 1告示削除済	3件
37	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限る。)	国立循環器病研究センター	登録期間が終了したため	—	2件
40	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(非小細胞肺癌、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	国立がん研究センター中央病院	2022年3月に症例登録が終了したため	—	78件
46	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	本先進医療で用いる特定細胞加工物を製造していた企業(株式会社テラ)が令和4年8月に倒産したことに伴い、患者登録を一時中断していたため。	新たな受託先として、株式会社リプロセルを選定し、現在、TIL製造の技術移転を進めている。技術移転終了後、速やかに特定認定再生医療等委員会および先進医療技術審査部会で修正申請し、TIL療法を再開する予定である。	2件

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和3年7月～令和4年6月までの実績 (実施可能であるすべての医療機関の実績)※
59	ペバシズマブ局所注入療法 重症未熟児網膜症	神戸大学医学部附属病院	試験要項に該当する重症未熟児網膜症の患児が発生しなかったため。	試験の継続適否につき独立データモニタリング委員会で審議が行われたところ、試験中止の判断となったため、近日中に取り下げの予定である。	0件
61	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	神戸大学医学部附属病院	該当するARDS患者が入室しなかったため。	あと3か月程度様子を見て症例がなかった場合は、適応を拡大することや多施設研究とすることも考えている。	0件
65	生体肝移植術 切除が不可能な肝門部胆管がん	熊本大学病院	本研究に参加する全10施設での実施体制の確立に時間がかかり、症例登録に至らなかったため。	2023年6月30日にすべての共同研究機関および研究協力機関を含めたキックオフミーティングを開催し、研究開始が可能となったため、今後は積極的に該当患者の集積を図る。	-
69	集束超音波治療器を用いた前立腺がん局所焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	東海大学医学部附属病院	研究計画書の書式改訂、およびEDCシステム構築のため、本研究開始(令和5年2月1日)から本年6月30日までに対象者の組入れを行っていない。本定期報告書作成日時時点で、先進医療実施医療機関は申請医療機関のみである。	研究計画書の書式改訂とEDCシステム構築が完了する本年10月から、最初の対象者の組入れを予定している。	-

※「-」は令和4年7月以降に告示された医療技

暫定的に先進医療 A として実施している技術について

1. 背景及び現状

- 平成 20 年の先進医療告示第 2 項各号に掲げられた先進医療のうち、平成 24 年 11 月 30 日の先進医療会議において先進医療 B へ振り分けることとされた技術については、暫定的に先進医療 A（以下、「暫定 A」という。）として実施しているところ。
- 暫定 A の取扱いについては、平成 29 年 1 月 12 日に開催した本会議において審議され、以下のように決定した。

- ・ 平成 29 年 3 月 31 日までに先進医療 B への移行できなかった技術については、平成 29 年 4 月 1 日をもって先進医療告示から取り消すこととしていたが、現在、同技術を継続して実施している患者が存在している期間は告示からの取り消しを猶予してはどうか。
- ・ 新規患者の組み入れについては認めないままとし、猶予期間後の先進医療 B への移行については各医療機関の判断に任せてはどうか。
- ・ 実施している患者がいなくなった場合には、医療機関より事務局に連絡することとし、当該医療機関についてはホームページ上から削除し、全ての医療機関が削除された時点でその技術を先進医療告示から取り消すこととしてはどうか。

2. 暫定 A として実施している技術の現状について

- 暫定 A として実施している技術については、新規患者の組み入れがないこと及び継続中の患者の有無について、事務局が定期的に確認をしており、令和 5 年 11 月時点の状況は以下のとおりである。
- 継続患者数が 0 になった技術に関しては、削除の手続きを適時行う。

告示 番号	先進医療技術名	令和 3 年 11 月時点	令和 4 年 11 月時点	令和 5 年 11 月時点
7	末梢血単核球移植による血管再生治療	1	1	1